

和の光



宝塚市立西谷中学校

ある中学生の手紙から

校長 筒井 啓介

2年生が終わる頃、学校が大嫌いだった。3年生になってもきっと同じやろうな…と思いつつ、1学期の始業式に渋々行ったのを覚えている。

けれど、その思いはすぐに消えたように思う。毎日が楽しくて、また「学校好きの自分」に戻れた。夏休みに入ってもお互いに励まし合った友達と勉強を頑張っていたら、いつもは長く感じられた休みもとても短かった。

2学期になり、4組が好きだという気持ちはますます大きくなってきた。その主なきっかけはもちろん体育大会だ。言葉には出せなくても、練習を重ねるにつれて、**みんな一つの目標を持っていることが分かった。そういう雰囲気嬉しかった。**今までのクラスでは感じたことのなかった色々な思いがあったから。当日、**みんなの思いは、最高の思い出へとつながった。**嬉しくて涙が出そうだった。

次の文化発表会でも、目標は一つだ。歌の練習にも力が入っていた。結果は残念だったけれど、この時までの練習の中で得たものは、ベガホールに行くことよりもずっと大事なことだと思う。特にこの二つの行事からは、**協力して一つの目標に向かうことの素晴らしさを強く教えられた。**

行事のことばかり言っている余裕もなく、あっという間に受験の時期が近づいてきた。みんなそれぞれ行きたい高校を目指し、クラスでも勉強会があって、「いよいよだな」と実感した。私も1年生の時から行きたい高校があり、「難しい」と言われる中、自分なりに努力した。その間、たくさんの悩みや不安に押しつぶされそうになったこともある。勉強していても、目的が分からなくなって何も手につかない時もあった。

みんなこの気持ちを抱えて頑張っているのに、**自分が独りになったようで怖かった。そんな時、いつも私を立ち上がらせてくれたのは、友達だった。**毎日のように教室でも家でも「がんばろう」と声をかけてくれた。そのたった一声で、不思議と今までの不安な思いは飛んでいく。言葉ってすごいと思う。でも、それは家族でもなく先生でもなく、たどり着く先は違うけれど、同じ気持ちを持って一緒に走っている友達が言ってくれた言葉だからこそ、効果があったのだ。

受験するにあたって、私はたくさんの人に支えてもらった。まだ終わってはいないけれど、その支えになるべく甘えないように頑張りたい。特に、親や先生には心配ばかりかけてしまったと思う。改めて「ありがとう」と言いたい。受験だけではなく、たくさんの場面でたくさんの思い出と一緒に生きてきた友達には、どんなにいい言葉を使っても、言い足りないような気がする。それでも一言いうとしたらやっぱり、**「ありがとう」このたった一言の中に色々な思いがこもっているから。大切に伝えたいと思う。**

もっと大きくなったら、忘れてしまうことの方が多いかも知れない。けれど、みんなで笑い合っている場面を思い出せたらいいと思う。離れていても、どこかでみんなはこんな風に笑っているのだらうと思えば、それだけでまた励みになるんじゃないかって気がする。いつか会うときは、今のままの笑顔で会いたいです。

■子どもたちから学ぶことの大切さ

左記の手紙は、私が教師になって7年目に担任をしたクラスの女子生徒が書いたものです。前年度に3年生を卒業させた後、4月にこの生徒の所属する学年に配属され、子どもたちとは初めての出会いでした。義務教育最後の中学3年生、「学校へ通うことが嫌になったり」「受験の不安に飲み込まれそうになったり」と、大きな心の揺れを感じながら過ごし、卒業間際に「先生、4組で過ごせて楽しかった。だから、私の思いを書いたので読んでみて」と手渡されたものです。

わずか1年間の関わりでしたが、この手紙を読んで子どもたちが日々感じていたことを知り、胸が熱くなりました。「学校は教師だけが子どもに教える場所ではなく、教師も日々子どもたちから学ぶ姿勢を大切にしなければならない」と、彼女の手紙を読んで教えられました。このことを忘れずに本校の学校づくりにも活かしていきたいと考えています。

■科学の楽しさを体験しよう～サイエンス・トライやる事業～

科学の楽しさを体験する実験教室を開催しました。身近にある資材を使った実験を通して、物質の状態変化・大気圧・摩擦などについて学びました。異なる2種類の金属を手を持って、輪になるように友達と手をつなぐことで電気を発生させる実験では、「先生、すごい私たちの友情や!!」と喜びの声が聞こえてきました。発生させた電気を使って電子時計を動かすことができたので、とても驚いた様子でした。日本では理科・数学が苦手もしくは興味がない生徒が多いと言われていますが、このような実験を通して学ぶことの大切さを強く実感する機会になりました。理科に限ったことではありませんが、各教科において、私たち教師が実験・実技などで子どもが主体となって動く機会を設けるなど、様々な工夫をすることを忘れてはいけません。予測困難な時代を生き抜く子どもたちには、「自ら課題や問題点を見つけて、他者と協力しながら解決する力」が求められています。今日の体験教室では、子どもたちだけでなく私たち教師も大きな学びの機会になりました。講師の斉藤先生(サイエンス・アドバイザー)には厚くお礼を申し上げます。



大気圧についての実験



視覚についての実験



重心についての実験

■宝塚市消防出初式で演奏しました(吹奏楽部)

年明けの1月7日、西谷中学校の体育館・グラウンドで宝塚市消防出初式が開催されました。本校の吹奏楽部は、参加された皆様に部員・顧問が心を一つにして演奏を披露させていただきました。本校の吹奏楽部は他校と比べると部員数が少ないですが、少人数でも他校に負けぬように顧問の指導のもと、部員の主体性を大切にしながら日々切磋琢磨しています。このような、貴重な機会をいただきました宝塚市消防関係の皆様にお礼を申し上げます。



宝塚市消防出初式にて

■避難訓練・防災学習を行いました

1月18日に西谷認定こども園・西谷小学校・西谷中学校が合同で避難訓練を行いました。阪神淡路大震災、東日本大震災、そして今年1月1日に発生した石川県能登半島での大震災など、地震はいつ発生するか分かりません。災害の発生時には、「慌てずに状況を的確に判断すること」、「自分の命は自分で守ること」を忘れずに対応してもらいたと思います。本校では中学生が中心になって、小学生・園児を班ごとにまとめて避難誘導する体制をとっています。そのため、園児・児童・生徒が体育館に避難し、居住地域ごとの班に分かれて、お互いの名前と顔を確認し合いました。

避難訓練に続き、宝塚防災リーダーの会より講師をお招きし、環境変化がもたらす災害・身近な防災・西谷地区の地形や特徴などについてお話を聞かせていただきました。また、簡易テント・段ボールベッドなどを組み立てたりする体験もさせていただきました。



段ボールベッドの組み立て



簡易テントの組み立て

■受験に向けて頑張ろう!!

3年生は受験に向けて、学習だけではなく面接の練習も進めています。2月には、私立高校の入試、公立高校の推薦や特色選抜が行われ、3月には公立高校の学力検査が行われます。

受験する高校によって入試科目が5教科であったり、3教科であったり、と異なります。入試が近づくにつれて、不安に思うこともたくさんあるでしょうが、日本全国の中学3年生が通る道です。あせらずに落ち着いて受験に臨めるようにしていきましょう。下記に受験に向けてポイントを書いておきます。

(1) 苦手な内容に重点を置こう

各教科の苦手な内容を克服できるように、重点的に復習をする。(例えば、数学の図形の照明、理科の電気が苦手なら、それが克服できるように計画的に取り組む)自分だけでは難しい場合は、必ず教科担当の先生に相談する。

(2) 入試の過去問を解いてみる

受験する学校の過去問を解いてみると、出題の傾向がつかめます。その傾向をつかんで受験勉強や、受験当日の時間配分を考える参考にもなります。

(3) 夜型から朝型に切り替えよう

脳が活発に動くためには、起床後2~3時間かかると言われています。そのためにも夜型の人は朝型になるよう。生活習慣を見直していきましょう。